

# 今再び世界平和の 鐘を打ち鳴らそう

—今、始めなければ人類の歴史に禍根を残す!—



一般社団法人 **世界平和の鐘の会**

General Incorporated Association World Peace Bell Association

# 一、今、世界は第三次世界への秒読みの危機

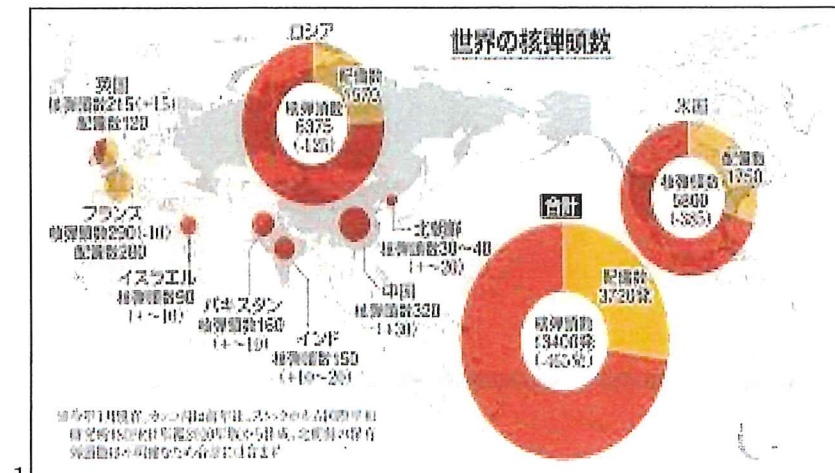
20世紀は戦争に明け暮れた世紀であった。第一、第二次大戦と人類は二つの大戦を経験した。その二つの大戦では推計1億600万人という想像を絶する犠牲者を出した。

その惨状に心をうたれた元愛媛県宇和島市長の中川千代治は、戦争の原因となった、それぞれの主義、主張、宗派、人類、民族、国の主張を乗り越えて、「二度とこういった人類全体を巻き込む戦争をしてはいけない」という願いから、世界平和の鐘を作り、国連に寄贈した。

そして、その志を引き継いだ「世界平和の鐘の会」は、今日まで、世界中に平和の重要性を伝える活動を続けている。

**しかし、戦後77年という歳月は、人類を再び世界を大戦へと引きずり込もうとしている。**

戦後、朝鮮戦争、キューバ危機、ベトナム戦争、イラク戦争、アフガニスタン戦争と、世界大戦の引き金となりかねない紛争や戦争を経験しながらも、どうにか、拡散せずに収束させてきた。ところが、2022年2月20日のロシアのウクライナ侵攻によって、にわかには世界大戦への緊張が一気に高まってきたのだ。





## 二、今こそ世界平和の鐘の理念に立ち返る必要がある

人類は、第二次世界大戦で原爆を開発し、それを実際に日本の広島長崎に使用した。

結果、数十万人もの尊い命が一瞬にして失われた。

今日のロシアとウクライナの戦争への危機感は、まさにその原爆の延長線上にある。

長い間続いてきた冷戦構造は、姿を変えて、今日においても変わらずに存在する。

このパワーバランスの中に今日のロシア、ウクライナ戦争の根本原因がある。今回のロシア、ウクライナの悪化は、冷戦時代のソ連(ロシア)

と米国(NATOW)を否応なしに、大戦へと引きずりこんでいく。これが第三次世界大戦である。

今回の大戦は人間が作り出した原爆や化学兵器の全てを総動員したものになる。それは、人類滅亡へのカウントダウンとなるものである。

この危機は目前に迫っている。

この危機を回避させ、再び世界が協力して平和を実現するには、今こそ、68年前の中川千代治の原点に立ち還らなければならない。

## 三、世界平和の鐘とは

今、私たちに平和裏にできることは、世界中で平和への祈りを込めた鐘を  
打ち鳴らすことである。

一見、鐘を打ち鳴らす行為は無力のように思えるかもしれない。

この大宇宙はエネルギーの大海原、信仰の源泉である深淵な世界である。

鐘を打ち鳴らすのは、人類の平和への願いの意識である。

この意識は鐘の音となって、大宇宙に響き、共振する。

それが、<sup>ひるがえ</sup>翻って世界人類の人々の心へと伝わっていく。

平和への行動は、さまざまに考えられる。そのさまざまな行動の総意は、

今の危機を解決するものである。

その先陣を切って、鐘の音を高らかに響かせ、  
平和への心呼び起こすのが世界平和の鐘の役割である。

人類には他の生命体より優れた能力として、「意識の力」を与えられている。

世界平和の鐘の響きは、この人類の平和への意識を呼び覚ますものとなるのだ。





## 四、中川千代治（敬称略）の思い

世界平和の鐘の活動は、提唱者の中川千代治の存在なくしてはありえない。

中川千代治は、第二次世界大戦(太平洋戦争)で二回の戦線を体験し、多くの部下や同僚を失った。戦場は地獄である。

中川千代治は、この戦場の地獄絵を見て、「二度と戦争をしてはいけない」という人生を課した不退転の決意をしたという。

中川千代治の熱意が、世界の人々の心を動かし、協力者を得て、世界の人々の願いを結集した「世界絶対平和万歳の鐘」ができあがり、戦後の平和を願い、設立された国連への寄贈となった。



### 〈中川千代治の事績〉

1905年11月6日－1972年2月25日

- ・日本の政治家、元愛媛県宇和島市長
- ・1951年 第6回パリ国連総会に日本国連協会理事として出席。
- ・「国を越え宗教の違いを越えて、平和を願う世界の人々のコインを入れた平和の鐘を造りたい」と65か国からのコインと、ローマ法王ピオ12世から金貨9枚の寄贈をいただき「世界絶対平和万歳の鐘」を鑄造。
- ・1954年6月日本国連協会から国連本部に寄贈。
- ・春分と9月21日の国際平和デーで鐘打式が行われている。

## 五、ウクライナへの寄贈と設置の意義

今の世界は第三次世界大戦前夜の危機的状況にある。

世界平和の鐘は、紛争の最前線に設置しなければならない。そういう意味では、まさに、ロシアとウクライナの戦争の地である「ウクライナ」に建立しなければならない。

このウクライナに建立する世界平和の鐘は、平和の願いとともに、ウクライナ、ロシア双方の戦火で犠牲となった尊い命への鎮魂の意味でもある。 その意味では、どうしてもウクライナを始めとする世界の宗教者の協力を得なければならない。そういった多くの人々のコンセンサスを取り付けての建立が求められてくる。

戦争当事者に利用されない意味の世界平和の鐘の建立を目指さなければならない。純粋に戦闘が終わった土地を選択することになる。





## 六、サンマリノ共和国を通じての寄贈の意義

世界平和の鐘のウクライナへの建立は、サンマリノ共和国の存在を抜きにしては実現しない。

なぜなら、今回のウクライナでの建立は、ウクライナとロシアの利害を超えて、純粋な平和への希求だからある。ウクライナとロシアに納得いただくためには、歴史上、世界のどの国にも組みしなかった「平和の国」「永世中立国」でなければならない。

サンマリノ共和国は、紀元後 301 年の独立以来、戦乱に明け暮れた西欧諸国の中であって、一貫して平和な国であり続けてきた。

第二次世界大戦では、十万人余りの戦争避難民を引き受けたという。自国の数倍もの難民を受け入れたという事績は、人類の歴史に燦然と輝くものである。

その意味で、今回のウクライナへの世界平和の鐘の寄贈と建立は、サンマリノ共和国を取り次ぎ役として、主要な役割を担っていただいたということである。



## 七、世界平和の鐘の音は、宇宙に広がり、 世界の人々すべての心にこだまして響き渡る

世界平和の鐘の音は宇宙に響き、その音は人類全ての人の心にこだまとなって返ってくる。

私たちのこの宇宙は、エネルギーの大海原であり、意識に満ち溢れている世界である。鐘の音は単なる物理的な金属の音ではない。

世界平和の鐘の音は、人々への平和への想いである。この想いが鐘の音となって世界の人々に伝えられていく。

当然に、今のウクライナとロシアの当事国の人々へと共振して届けられていく。

世界平和の鐘の音は時空を超えて、50年、100年先の未来へも届けられていく。

人類の平和への願いは、人類存続への普遍的な願いである。ウクライナに世界平和の鐘が建立され、決められた日時に、国連の世界平和の

鐘の合図で世界中の世界平和の鐘を同時に打ち鳴らす。考えるだけで心躍るものである。





## 八、人類史上、はじめての被爆地、広島と長崎からの メッセージ

中川千代治の原点は、自らも今大戦の二回の前線での地獄絵の体験であった。

もう一つの原点となったのは、人類史上初めて使用された原爆投下地、広島や長崎に対する思いである。

この原爆による広島、長崎の惨状は、こういった核科学兵器を作り、手にした人類は、「二度と戦争をしてはいけない」「次に戦争したときには人類の滅びである」という思いになったのだ。

中川千代治の危機意識は、単に戦争の犠牲を越えて、人類滅亡への危機意識であったのである。

今のウクライナ、ロシア戦争は、正に、核兵器使用のカウントダウンの只中にある。

世界平和の鐘の音は、核兵器使用の危険性への警鐘であり叫びであり、人類生存への祈りである。



## 九、恩讐の彼方に

世界平和の鐘のメッセージは、主義、主張、宗派、人種、民族、国を越えて、「平和への祈り」をすることにある。

戦争は、こういった理由による互いの利害の対立の原因となるのである。利害の対立は際限のないものである。話し合いで解決できないからこそ、戦争という力による解決に決着を委ねてしまう。

世界平和の鐘の祈りは、そのようなさまざまな利害を越えて、人類のすべての基となる「平和への希求」への祈りである。

日本には「恩讐の彼方に」という言葉がある。

互いの利害に伴う恨みや憎しみを乗り越えて、もう一度、互いに手を携えて、協力して付き合っていこう、ということである。この「恩讐の彼方に」の思いをつなぐ架け橋がこの世界平和の鐘に他ならない。





# 十、世界で同時に世界平和の鐘を鳴らそう

ウクライナへの世界平和の鐘の寄贈と建立が実現した時にやらなければならないことがある。

それが、一つの祭典としての「世界中の世界平和の鐘を同時に打ち鳴らしましょう」ということである。

中川千代治は「世界絶対平和万歳の鐘」を288個を世界中に寄贈し建立した。

ウクライナでの建立の暁には、この鐘を同時に世界中で打ち鳴らすというイベントが重要となってくる。

これこそが今回の意図と言って過言ではない。



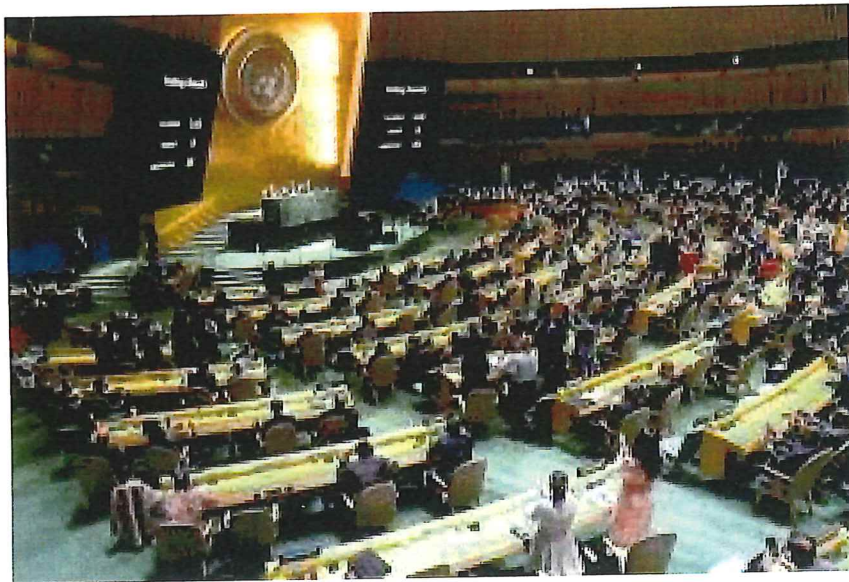
# 十一、世界のリーダーへの呼びかけ。今こそ世界人類が 一つになる時である

平和時における「世界絶対万歳の鐘」の建立に対しては誰も反対はしない。しかし、実際に戦争が勃発してみると、世界平和の鐘の建立自体に、それぞれの当事者の思惑が錯綜として現れてくる。

今回のウクライナでの建立は大変繊細な場面にある。

そのためにも、世界中の政治、経済、宗教、人種、民族の指導者への呼びかけが重要となってくる。

すべての人々に納得いただけるための建立でなければならない。





〈写真掲載〉

上記の文章で使用しました写真は、Google から転載したものです。

〈執筆責任〉

世界平和の鐘の会

宮 城 悟

2022. 9. 3